令和4年度アレルギー疾患医療連絡会議　会議録　要旨

開催日時：令和5年1月 19 日（木） 15 時から 16 時 30 分まで
開催方法：Zoom によるオンライン

【意見交換】
（1）アレルギー疾患対策基本指針についての本県における取組み
〇事務局　資料1により説明。

〇小田切主任指導主事　資料2により説明。

〇花岡座長
　アレルギー疾患医療に携わる医師に対する講習の機会確保について、出席者から発言いただきたい。

〇木庭構成員
　日本皮膚科学会、日本アレルギー学会の会員として、また専門医として、学術大会の教育講演会、教育セミナー等の受講、講習会の受講など自発的な学びをしている。医局の仲間もそれぞれの専門に応じた自発的な学びをしている。
　医局の取り組みとして、アレルギー患者の症例検討会を月に 1 回、定例的に開催している。外来、入院で検査を受けた患者の治療計画を立てたり、検査結果の解釈などを通して検討する機会を持っている。若手の医師に対しては上級医からアレルギー疾患の系統的なレクチャーを毎年、時間を設けて行なっている。
　もっと気軽に無料で勉強できるようなオンデマンドのコンテンツが充実していくと、自発的な学びの機会がより増えるのかなと思っている。

〇花岡座長
　知識の均てん化をコンスタントに行うこと重要である。

〇伊藤構成員
　医師の講習としては、経口負荷試験の見学希望があれば、レクチャーも含め、こども病院として積極的に受け入れている。
　一人の医師が何回も来ることもあれば、半年間、月に 1 回 2 回定期的に来ている先生もいる。延 10 人以下。要望があれば、受け入れていきたい。
　一般の、全てのアレルギー診療に関わる医師に対する講習はしていない。企業が主催する研修会もコロナ禍で減少している。興味ある医師は参加するが、全ての先生方に基本的な知識、紹介のタイミングを周知するということは現状では難しい。病院主催で開催する財源もなかなかないので難しいのが現状です。

〇小池構成員
　経口負荷試見学以外にも、外来見学の受入れも行っている。企業の勉強会の講師をすることもある。

〇上條構成員
　日本アレルギー学会としては、総合アレルギー診療医を育成するため、各科で講習資料や動画作成等している。

〇花岡座長
　医療従者の知識の普及及び技能向上のための自己研鑽を促す施策等の検討について、関係団体の皆様から取組みについて、ご意見いただきたい。

〇神田構成員
　信大薬剤部と松本薬剤師会にて、アレルギー疾患の吸入療法のための連携事業を行っている。ワーキングを通じて、標準的な指導書、手順の作成、研修の機会を通じて技術的な研鑽に努めている。広がっていくといいのかなと思う。
　学校薬剤師に対して知識を深める、アレルギー疾患やエピペンについて等教育の機会があまりないと感じている。

〇馬島構成員
　給食の現場でアレルギー対応を行う。よく勉強しなくてはいけないということで、専門医を講師としてお願いして、研修会を行っている。
　親との連携が取れないと事故につながる、職員同士の連携がとれないと事故後の対応が適切に行えなくなるなどの問題が生じるため、連携が大切である。

〇平山構成員
　長野赤十字病院では、2年前からアレルギー科標榜している。アレルギーエデュケーター、アレルギー疾患療養指導士等資格が増えているので、自己研鑽として資格取得を推奨している。
　アレルギー疾患の専門医が着任してから、経口負荷試験やトレッドミルなど専門的な検査を実施できるようになった。専門医は小児科医や内科医へ知識を広めたいと言っていた。コメディカルとしては、アレルギー疾患療養指導士を取得する人が増えてきているので、看護師間でも情報共有図りながら、知識を深めていきたい。
　病院として、地域に出た活動もできればとは考えているが、コロナ禍では難しいと感じている。

〇花岡座長
　情報の共有、連携が大切。
　患者、家族の就労を維持できる環境整備に関する施策を検討するという項目に対して、就労の継続以外にも就学も課題がある。

〇西澤構成員

重いアレルギー疾患の患者を持つ親は学校との情報共有のために、困ったことが起こることがあると聞いたことがある。

コロナ禍で学校に行く機会がなく、仕事を休んで学校に行く、何かあったらという心配から就労に支障があるという話は聞く。

学校では、担任が変わるときにアレルギー疾患に関する情報共有を徹底してもらえるとありがたい。

〇伊藤構成員

こども病院の負荷試験は1泊2日で実施し、親に付き添いを依頼している。仕事を休んでいるかもしれないが、親の就労に関するアンメットニーズの把握に対する取組みはない。

・食物アレルギーは原因食材も重症度も個人個人で違い、個別な対応が求められることに難しさがあり、管理は生活管理指導票のみでは対応難しい。もっとコミュニケーションが取れる環境があるとよい。

〇小池構成員

コロナ禍で、定期的な外来受診は電話診療でも対応可能な場合がある。そういう方法も活用すると、負担が少なくなるか。

進級時の情報共有の課題については親から聞くこともある。学校によっては、生活管理指導表は保管場所が決まっていて共有可能というところもあるが、全職員が共有する難しさがあるとも感じている。

〇木庭構成員

中高校生、大学生は、小児と違うタイプのアレルギー、食物依存性運動誘発アナフィラキシーなどが増えてくる。症例多くはないが高校生になってから食物アレルギー発症する方もいるが、高校生以上では生活管理指導表がないかと思う。アレルギーがあることがわかるノートなどの形があるとよい。

大学生では、原因不明のアレルギーにより食事をとることが怖くなり、休学している患者もいる。

そのような患者がいることをいることを高校、大学、会社の方等に周知が必要である。アレルギーの調査票は高校生、大学生などにもあるといいか。

〇上條構成員

アレルギー疾患の症状により、授業に集中できない、仕事中も能率が上がらないという困難があることは一般の方には浸透していない。

○花岡座長
　アレルギー疾患やアレルギー疾患の症状により患者が困っていることを県民の方に周知することは大切である。

（2）第8次長野県保健医療計画の策定について

○花岡座長
　長野県の目指すべき姿と短期的な目標について、構成員から意見を頂きたい。

○木庭構成員
　目指すべき姿は、県民がアレルギー疾患を抱えていても安心して、安全に暮らせることではないか。短期的な目標としては、アレルギー診療を専門とする医療従事者を充実させる。専門医、認定看護師等引き続き伸ばしていく、講習、研鑽の機会を充実させること。そして、それらについて具体的な数値目標を作る。

○伊藤構成員
　前回計画の KPI は専門医を増やすとなっているが、医師が自発的に専門医を取得するものなので、KPI としては難しいかなと思う。
　専門医を活用して、保健師、栄養士、学校で研修することは数値として出すことができる。協議会を年に1回は開催するということは KPI でよい。拠点病院としての活動を維持することも必要である。

○小池構成員
　小児のアレルギー疾患で多いのは食物アレルギーとアトピー性皮膚炎だが、この2つの疾患は適切な時期に適切に対処すると改善していく可能性が大きい。どのようなときに専門医に紹介したほうがいいか、最低限やった方がいいこと、やらないほうが良いことをメッセージとして医療者、特に医師に伝わるようにした方がいい。重要な情報が均等に伝わるような発信があるとよいのかな。アトピー性皮膚炎については、乳幼児健診で関わる保健師の知識が広がるとよい。

○上條構成員
　アレルギー疾患を持っている人が適切な治療を受けて、健常者と変わらない生活ができることは大切である。
　以前、山梨医科大学、埼玉大学のアレルギーセンターに属していた。いずれのセンターでも外部講師を呼び、各科持ち回りで、誰でも参加できる講習会を開催し、知識の普及を図っていた。山梨県では保健師や看護師に対する乳幼児のスキンケアの普及啓発をしていた。

○平山構成員
　長野赤十字病院でも患者の QOL を高めることが目標。皮膚ケアだけで改善したアレルギー患者もいた。看護師間でも研修を増やしていこうと考えている。研修会の数値目標があるといいか。

○神田構成員
　チームで診てかなくてはいけないと感じている。アレルギー疾患の療養指導士を広げていく、核になって活動することで、アレルギー患者の QOL を高める。
　アレルギー疾患について知ってもらい、すそ野を広げることが重要である。

○馬島構成員
　安全な食事を提供できる、患者に対応するといったことでは、研修会をして、スキルアップを図ることが重要である。
　危機管理マニュアルにより対応していくことが大切である。危機管理をどうしていくか、情報の共有をしっかりしていくことは患者の安心につながる。アレルギー疾患の患者が持つノートがあれば、情報があれば横にも縦にもつながるということも重要。
　どの医師にかかればよいか県からの情報発信も大切ではないか。

○西澤構成員
　こどもたちにもわかりやすくアレルギーについて話をしてもらえるとありがたい。アレルギー疾患もいじめの原因になることあると思うので、子供たち自身が正しい知識を得る意識づくりができると思う。

○伊藤構成員
　子供向けの授業や講座はやったことがない、依頼も来たことがない。食物アレルギーで食べるものが違うといったことで、いじめの可能性はゼロではないだろう。食育の中でアレルギーについて取り入れることは大切である。
　もし、アレルギー疾患に係る資格を持つ専門職の数を目標に掲げるのであれば、県として資格取得に補助を出してはいかがか。

○長瀬構成員
　目指す姿としては、居住する地域に関わらず適切な医療を受けることが大切と考える。
県民の方々が科学的に正しい知識を習得して理解することも大切と考える。
　普及啓発に関しては、協議会の開催や研修会の開催が大切と考える。

（3）その他

〇上條構成員

　長野県の花粉飛散の状況はどこで見たらいいか。製薬会社のパンフレットを見ると長野県の飛散状況については空白になっている。どこから花粉の飛散状況についての情報を得ることができるか。

〇事務局

過去には、県内保健所で飛散状況の調査、公表していたが、現在はしていない。

確認して、後程ご連絡する。